

Dark Triad とシャーデンフロイデ —特性妬みとの関連も踏まえて—¹

稲垣 勉*

(2018年10月23日 受理)

The Relationship Between the Dark Triad and Schadenfreude

IINAGAKI Tsutomu

要約

本研究の目的は、マキャベリアニズム、自己愛、サイコパシー傾向という3つの特性から構成される Dark Triad と、他者の不幸を嘲笑う感情であるシャーデンフロイデとの関連を検討することであった。また、両者の関連を検討するにあたり、特性としての妬み傾向の影響も分析に加えた。大学生105名を対象としたシナリオ実験の結果、特性としての妬みを測定する Benign and Malicious Envy Scale (BeMaS) の悪性妬みは、高地位のターゲット人物に対する妬み感情を生起させ、ターゲット人物の不幸に対するシャーデンフロイデを促進することが示された。また、Dark Triad の各下位尺度は、マキャベリアニズムが状態妬みを促進する、自己愛傾向がシャーデンフロイデを促進する、サイコパシー傾向がターゲット人物に対する憧れ／賞賛を抑制するといった結果が得られた。このことは、BeMaS の予測的妥当性を示すとともに、その影響を取り除いても、Dark Triad が妬み感情やシャーデンフロイデに影響することを示したものである。

キーワード：Dark Triad, シャーデンフロイデ, 特性妬み

¹ 本研究は、著者の指導のもと、鹿児島大学教育学部心理学専修の一岡優太・後藤みのり・澄川采加・中屋果代の4名が平成29年度に心理学研究法の実習において行った研究を新たに分析し、まとめ直したものである。ご協力を賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 講師

問題と目的

「他人の不幸は蜜の味」という言葉があるように、私たちは他者の不幸を見た際に「ざまを見る」「いい気味だ」と感じてしまうことがある。こうした気持ちはシャーデンフロイデ (Schadenfreude) と呼ばれており、ドイツ語で「害」を表す「シャーデン」と、「喜び」を意味する「フロイデ」という2つの言葉が合わさったものである (Smith, 2013 澤田訳 2018)。こうした公言しにくい感情の規定因について、当人 (以下、ターゲット人物とする) の特性や置かれた状況、回答者 (ターゲット人物に対する感情を報告する者) の特性といった側面から、数多くの研究が行われている (レビューとして、澤田, 2008)。

ターゲット人物の置かれた状況 シャーデンフロイデが喚起しやすい条件には、ターゲット人物が不幸に遭ったのは、それに応じた理由がある場合で、当該の不幸があまり深刻でないという点が挙げられる。たとえば、自らの意思で飲酒し、その後に自ら車を運転して警察に検挙された場合などが該当する。実際に、こうした状況で不幸に遭ったターゲット人物に対するシャーデンフロイデが高まりやすいことが示されている (藤井・澤田, 2014)。

ターゲット人物の特性 澤田 (2008) や藤井・澤田 (2014) は、「高学歴であり容姿端麗な恋人がいる」という情報と併せてターゲット人物が呈示された場合、「学歴は普通程度であり、恋人の容姿は可も不可もない」という情報とともにターゲット人物が呈示された場合と比して、「うらやましい」「嫉妬を感じる」といった妬み感情が高まりやすく、結果としてシャーデンフロイデに結びつくことを示している。

回答者の特性要因 澤田 (2008) は、回答者の特性としての罪悪感や自己愛、自尊感情がシャーデンフロイデに与える影響を検討し、結果を報告している。ここでは、男女ともに自尊感情が高いほどターゲット人物に対する妬み感情が抑制され、間接的にシャーデンフロイデが抑制されることや、女性に限り罪悪感の覚えやすさは直接的にシャーデンフロイデを抑制すること、自己愛 (注目・賞賛欲求) の高さはシャーデンフロイデを促進することが示された。

Dark Triad 本研究では、回答者の特性要因について更なる検討を行うことをめざし、Dark Triadという特性に着目して研究を行う。Dark Triadとは、マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向という3つのネガティブな特性をまとめたものであり、社会的に嫌われやすい特性である (下司・小塩, 2017)。各概念の特徴は、それぞれ Dark Triad を測定する尺度の日本語版を作成している下司・小塩 (2017) や田村・小塩・田中・増井・シヨナソン (2015) に詳しいが、これらの研究を参考に、他の先行研究も含め、本稿で再度紹介する。

まずマキャベリアニズムは他者操作的で搾取的であり、冷笑的な世界観を有するとされる (下司・小塩, 2017; 田村他, 2015)。マキャベリアニズムは向社会的行動および Big Five の協調性と負の相関を示す (中村他, 2012)。下司・小塩 (2017) の尺度では、「他の誰かに自分の秘密を教えないということは賢明なことだ」などの項目、田村他 (2015) の尺度では「私には人をあやつっても自分の思い通りにするところがある」などの項目で測定される。

次に自己愛傾向は、賞賛や注目、地位や名声を求め、他者に対して競争的・攻撃的な特性とされる（田村他、2015）。また、優越感、自己満足、権力、虚栄、自己顕示、特権意識、搾取性という特徴を持つ（下司・小塩、2017）。自己愛傾向は下司・小塩（2017）では、「周りの人は私を生まれながらのリーダーだと思っている」などの項目、田村他（2015）では、「私は、他の人から立派な人物だと思われたいほうだ」などの項目を用いて測定する。

最後に、サイコパシー傾向は浅薄な情動、共感性や罪悪感・良心の呵責の欠如、無責任さ、衝動性、拙い計画性・意思決定といった特徴があるとされる（下司・小塩、2017）。また、利己性や希薄な感情を代表とする対人的・感情的側面と衝動性のような行動的側面を持つ特性（田村他、2015）とされる。サイコパシーは、共感性の低さや罪悪感の欠如といった情動的な障害を示す一次性サイコパシーと、反社会性や衝動性といった行動的な障害である二次性サイコパシーに分類される（大隅・金山・杉浦・大平、2007）。大庭・西松・大平（2013）では、一次性・二次性サイコパシーはともにマキャベリアニズムや攻撃性と正の相関を示すことが報告されている。サイコパシー傾向は下司・小塩（2017）では、「私は目上の人に仕返しや報復をしたいと思うことがある」などの項目、田村他（2015）では、「私は、自分の行動の善悪にはあまり関心がない」などの項目を用いて測定する。下司・小塩（2017）による Dark Triad の尺度では、サイコパシー傾向は大隅他（2007）の一次性サイコパシーとの相関の方が強かったが、田村他（2015）が作成した尺度では、サイコパシー傾向は一次性・二次性サイコパシーと同程度の相関を示していた。

こうしたネガティブな特性である Dark Triad は、その特徴からシャードンフロイデのようなネガティブな感情を生起させやすいのではないかと考える。実際に、Dark Triad の一側面である自己愛傾向のうち注目・賞賛欲求は、女性においてシャードンフロイデを促進させることが澤田（2008）で示されている。また、Porter, Bhanwer, Woodworth, & Black（2014）は、Dark Triad とシャードンフロイデの関係を検討し、軽微な不幸に遭ったターゲット人物へのシャードンフロイデに対し、マキャベリアニズムとサイコパシー傾向は有意であるが弱い正の相関（それぞれ $r = .25, .26, ps < .01$ ）を、自己愛傾向はごく弱い正の相関（ $r = .17, ns$ ）があることを報告している。ただし、この研究では澤田（2008）や藤井・澤田（2014）のように、ターゲット人物に対する妬み感情は測定されておらず、Dark Triad が妬み感情を喚起させ、それがシャードンフロイデに結び付くのか、それとも直接的にシャードンフロイデを喚起させるのかは定かではない。ゆえに、本研究ではこの点も検討に加えることとする。

本研究における研究デザイン さらに、本研究では妬み感情を喚起させやすいと思われる、特性としての妬みやすさも測定し、検討に加える。これまでの研究（藤井・澤田、2014; 澤田、2008）では特性としての妬みやすさの影響は検討されていないため、妬みやすい人が、高地位にあるターゲット人物を呈示された際に、実際に妬み感情を高めるか否かも併せて検討したい。この特性としての妬みやすさを測定する尺度は2つの下位尺度から成っており、一方は前述のネガティブな妬み（優れた他者を引きずり下ろそうとするもの）である。もう一方はそれ

に対してポジティブな妬みとも解釈できるもので、それをよい刺激にして自分を高めようとするものである。前者は悪性妬み、後者は良性妬みと呼ばれる(澤田・藤井, 2016)。良性妬みを持ちやすい人は、マラソンといったスポーツや大学における定期試験などにおいて目標を高く設定しやすく、結果としてよい成績をおさめることが示されている(Lange & Crusius, 2015; 澤田・藤井, 2016)。そこで、本研究では悪性・良性妬みの両者からの影響を検討する。

加えて、妬ましい人物を見た際に生じる感情にも「妬み」というネガティブな側面のみならず、その人に対してすごいと思う、賞賛するといったポジティブな感情があると考えられる。実際に澤田(2008)や藤井・澤田(2014)は、妬ましいターゲット人物を見た際に、「とてもよくできた人だと思う」、「みんなから尊敬される人物だと思う」といった憧れ、もしくは賞賛と解釈できる感情が生起することを報告している。シャーデンフロイデについても同様であり、他者が不幸に遭った際には、「気の毒だ」「かわいそうだ」といった同情と解釈できる共感的な反応が生起することも澤田(2008)や藤井・澤田(2014)にて報告されている。本研究では、これらの変数も検討に加える。

測定上の工夫 シャーデンフロイデや妬み感情はもとより、こうした Dark Triad を測定する尺度には、社会的な望ましさによって回答が歪む可能性が指摘できよう。また、匿名性を確保したとしても、回答者の属性について(年齢、学部など)報告を求めた場合、ネガティブな回答は抑制されやすくなると思われる。そこで本研究では以下の2点の工夫を加える。

工夫の一点目は、各尺度に併せて社会的望ましさ反応尺度(谷, 2008)への回答を求め、社会的に望ましい反応をどの程度行っているかを測定し、分析に組み込むことで、その影響を統制するというものである。

工夫の二点目は、回答者に報告を求めるのは性別のみとし、それ以外の情報は一切収集しないというものである。また、番号等の記載が一切ない封筒に質問紙を入れて配布し、回収時には封をして提出してもらうという形式をとる。

これらの工夫により、社会的な望ましさによる回答歪曲の可能性を下げ、分析の精度を上げることが期待される。

方法

参加者 大学生105名(男性48名、女性53名、未回答4名)が本調査に参加した。

材料 本研究では、以下の材料を用いた。

(1) 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) 下司・小塩(2017)が作成した、Dark Triad を測定する尺度である。マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向の3下位尺度を、それぞれ9項目で測定する尺度であり、その信頼性・妥当性は下司・小塩(2017)で確認されている。回答は「1: 全くそう思わない～5: 非常にそう思う」の5件法で求めた。

(2) Benign and Malicious Envy Scale (BeMaS) Lange & Crusius(2015)の尺度を澤田・藤井(2016)が翻訳した、特性としての妬みやすさを測定する尺度である。他者を引きずりおろそうとする「悪性妬み」5項目と、優れた他者に自分も追いつこうとする「良性妬み」5項目の

2つの下位尺度からなる尺度であり、その信頼性・妥当性は澤田・藤井（2016）で確認されている。回答は「1：全くあてはまらない～6：とてもあてはまる」の6件法で求めた。

(3) バランス型社会的望ましき反応尺度日本語版（Japanese Version of Balanced Inventory of Desirable Responding：BIDR-J） Paulhus（1991）の尺度を谷（2008）が作成した、社会的望ましき反応を測定する尺度である。回答者が本当に自分の自己像と信じて無意識的に社会的に望ましく回答する反応である自己欺瞞と、故意に回答を良い方向に歪めて、真の自己像を偽る反応である印象操作の2下位尺度から成る。この信頼性・妥当性は谷（2008）で確認されている。2つの下位尺度はそれぞれ12項目から構成されているが、今回は参加者への負担を考慮して、谷（2008）で報告されていた因子負荷量の高い5項目ずつを使用することとした。回答は「1：あてはまらない～5：あてはまる」の5件法で求めた。

(4) ターゲット人物に関する感情尺度（前半） 藤井・澤田（2014）で使用されたものと同であった。状態妬み（5項目）および憧れ／賞賛（7項目）から成る。回答は「1：全くそう思わない～6：非常にそう思う」の6件法で求めた。

(5) ターゲット人物に関する感情尺度（後半） 藤井・澤田（2014）で使用されたものと同であった。シャーデンフロイデ（7項目）および同情（6項目）から成る。回答は「1：全くそう思わない～6：非常にそう思う」の6件法で求めた。

(4)と(5)について、藤井・澤田(2014)ではターゲット人物の地位および責任の所在について、それぞれ2条件を作成していたが、その中で最もシャーデンフロイデが高まっていた条件（高地位の人物が、自身の責任が大きい状況で不幸に遭った）のみを採用した。シナリオの内容は、「ターゲット人物は都内の有名私立大学生であり、裕福な家庭で育った後、高級マンション暮らしをしている。スポーツが得意で、同じサークルの容姿端麗な人と付き合っている。成績は非常に優秀で、大手進学塾で時給3000円の塾講師のアルバイトをしている。希望していた一流企業から内定を得た」人物が「自身が飲運運転をし、警察に検挙されたことが原因となり、内定を取り消され、恋人にも振られてしまう」というものであった。なお、このターゲット人物の性別は、男性および女性の2パターンを用意し、参加者と同性の人物を呈示できるよう留意して配布した。上記の他にいくつかの心理的特性を測定しているが、本稿では割愛して報告する。

手続き 講義時間等を利用して一斉配布したほか、個別に手渡しをするなどして質問紙を配布した。実施時に、本研究への参加は任意であること、回答の有無によって成績が影響を受けることはないことを説明し、参加者と同性のターゲット人物が呈示されるよう調整して質問紙を配布した。また、参加者の匿名性を確保するため、性別以外の情報は尋ねなかった。参加者はまずSD3-J、BeMaSおよびBIDR-Jに回答したのち、ターゲット人物に関するストーリーを読み印象評定（前半）を行い、後半のシナリオを読んだうえで感情尺度に回答した。所要時間は概ね15分程度であった。

結果

データの整理 各下位尺度について相加平均を求め、それぞれの尺度の得点とした。本研究で実施した各尺度の記述統計量、相関係数および信頼性係数の推定値(ω 係数)を Table1 に示す。印象操作および自己欺瞞の ω 係数がやや低いものの、それ以外の尺度では ω 係数は.70を超えており、各下位尺度は一定の内の一貫性を有すると判断し、すべての下位尺度得点を分析に用いた。

Table1 各尺度の記述統計量および相関係数、信頼性係数の推定値

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	ω	<i>M</i>	<i>SD</i>
1 悪性妬み	—										.88	2.36	1.00
2 良性妬み	-.05	—									.88	4.02	0.98
3 マキャベリアニズム	.36 **	.26 **	—								.79	3.28	0.66
4 自己愛傾向	.30 **	.05	.18	—							.71	2.24	0.55
5 サイコパシー傾向	.54 **	.09	.43 **	.47 **	—						.70	2.35	0.55
6 印象操作	-.42 **	-.24 *	-.62 **	-.17	-.32 **	—					.61	1.87	0.57
7 自己欺瞞	-.10	-.07	-.15	.22 *	.11	.15	—				.51	2.14	0.76
8 状態妬み	.38 **	.18	.28 **	.07	.27 **	-.13	-.12	—			.83	3.34	0.97
9 憧れ/賞賛	-.11	.15	.04	-.13	-.19	.10	-.10	.29 **	—		.82	4.02	0.81
10 シャーデンフロイデ	.48 **	-.05	.32 **	.33 **	.46 **	-.30 **	.03	.36 **	-.14	—	.95	2.26	1.14
11 同情	-.06	.18	-.04	-.01	-.05	.11	-.14	.18	.31 **	-.32 **	.79	3.31	0.94

** $p < .01$, * $p < .05$

注) 欠測の関係で、それぞれの $N = 102 \sim 105$ である。

性差の検討 各尺度の得点について、性差が見られるか否かを検討した。その結果、サイコパシー傾向 ($t(95) = 2.12, p < .05, d = 0.43$) とシャーデンフロイデ ($t(95) = 4.64, p < .01, d = 0.94$) に有意な性差が見られ、いずれも男性の方が女性より高かった²。

パス解析 続いて、各尺度間の関連を検討するためにパス解析を行った。なお、相関分析の結果から、多くの尺度は BIDR-J との相関が認められていたことを踏まえ、BIDR-J の 2 下位尺度を統制してパス解析を実施した。最終的に採択したモデルを Figure1 に示す³。

² サイコパシー傾向得点の平均値は、男性が 2.45、女性が 2.21、シャーデンフロイデ得点の平均値は、男性が 2.75、女性が 1.75 であった。

³ なお、本研究においてはサンプルサイズの少なさを考慮し、男女別に分けた分析は実施していない。考察の箇所でも述べるが、この点も含めた分析は今後の検討課題といえる。

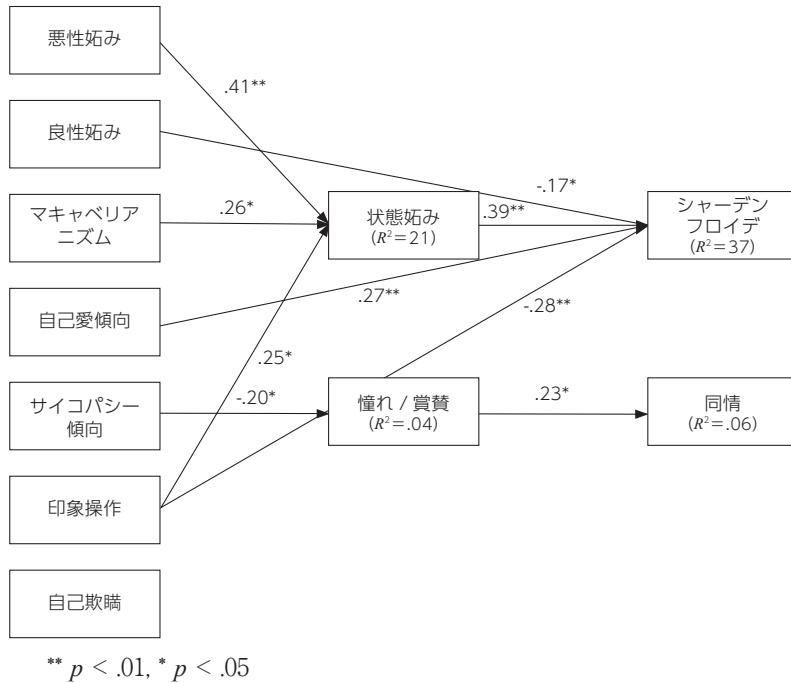


Figure1 パス解析の結果

注) 独立変数(第一水準)の各下位尺度間および状態妬みと憧れ/賞賛, シャードンフロイデと同情の各下位尺度間の相関係数は, 図が煩雑になるため省略した。

パス解析の結果より, 悪性妬み, マキャベリアニズムおよび印象操作は状態妬みを促進すること, サイコパシー傾向は憧れ/賞賛を抑制すること, 良性妬みおよび自己愛傾向, 印象操作はシャードンフロイデに直接的な影響(良性妬みおよび印象操作はシャードンフロイデを抑制し, 自己愛傾向はシャードンフロイデを促進する)を及ぼすことが示された。また, 状態妬みはシャードンフロイデを, 憧れ/賞賛は同情を, それぞれ促進することが示された。

考察

本研究は, 社会的に望ましくないとされる特性である Dark Triad とシャードンフロイデとの関連を検討することが主な目的であった。以下, 本研究で得られた結果について考察する。

性差について サイコパシー傾向とシャードンフロイデの2変数について, 有意な性差が認められた。サイコパシー傾向の性差については, 下司・小塩(2017)と同様の結果が得られた。ただし, 下司・小塩(2017)ではマキャベリアニズムにも有意な性差を報告しており, この点は本研究とは一致しない結果となった⁴。また, シャードンフロイデについては, 澤田(2008)

や藤井・澤田(2014)と一致する結果が得られた。

ターゲット人物に関する感情(前半) 状態妬み尺度の得点に影響を及ぼしていたのは、BeMaSの悪性妬み尺度、SD3-Jのマキャベリアニズム尺度、そしてBIDR-Jの印象操作尺度の得点であった。

悪性妬みから状態妬みへの影響が見られたことは、もともと妬みやすい人は高地位にある人を見て妬み感情を喚起させやすいという予想に一致した結果を示しており、このことはBeMaSの予測的妥当性を示しているといえるだろう。

また、マキャベリアニズムの他者操作性という観点から考えると、本研究で呈示されたような高地位条件のターゲット人物を見た際に、自身が他者より優位に立ちたいという思いが叶わず、そのことによって妬みという感情が促進されると推察できる。

加えて、印象操作は状態妬みの得点に正の影響を及ぼしていた。自身の印象をよく見せようとするほど、妬みを高く報告するという点はやや解釈が困難であるが、本研究で用いた高地位のターゲット人物に対し、「劣等感」や「うらやましさ」を感じるのは自然なこととも考えられる。印象操作の高い人は自己卑下的な回答として、こうした状態妬みの得点を高く報告したのかもしれない。

続いて、憧れ／賞賛に対して、サイコパシー傾向は負の影響を及ぼしていた。浅薄な情動、共感性や罪悪感・良心の呵責の欠如、無責任さ、衝動性、拙い計画性・意思決定という性質は、高地位のターゲット人物に対して高まることが予想される憧れ／賞賛を抑制していた。こうした特徴を高く持つ人たちは、あえて憧れ賞賛といったポジティブな感情を抑制する傾向があるのかもしれない。

ターゲット人物に関する感情(後半) シャーデンフロイデに対して、良性妬みおよび自己愛傾向、印象操作からの直接のパスが有意であるとともに、状態妬みからの影響も有意であった。まず良性妬みはシャーデンフロイデに弱いながらも負の影響を与えており、ポジティブな妬みを持ちやすい人は、他者の不幸を喜ぶ気持ちが抑制されることが示された。

また、自己愛傾向はシャーデンフロイデに正の影響を及ぼしていた。他者に対する競争的・攻撃的な特性という側面を持つ自己愛傾向の高さは、他者が不幸に遭った際に、その不幸を喜ぶシャーデンフロイデと一定の関連があることが示された。小塩(2002)によれば、自己愛傾向における3つの側面(優越感・有能感、注目・賞賛欲求、自己主張性)のうち、注目・賞賛欲求は他者に関する間接的攻撃(e.g., 頑張っている人がいたら、頼まれたこととは反対のことをする、など)と正の相関が認められている。この点を踏まえると、今回の結果は、自らが直接手を下さないというシャーデンフロイデの性質と馴染むようにも思われる。

加えて、印象操作はシャーデンフロイデに負の影響を及ぼしていた。自身の印象を望ましく

⁴ 本研究のデータでは、マキャベリアニズム得点の平均値について、男性は3.35、女性は3.20という値が得られ、わずかに男性の方が高かったが、この差は有意ではなかった($p = .28$)。

見せようとする人ほど、シャーデンフロイデを低く報告していた。印象操作の高さは、他者の不幸を喜び、楽しむといったネガティブな感情の表出を抑制していることが示された。

そして、状態妬みからシャーデンフロイデへの正の影響が有意であった。高地位のターゲット人物を見ることで生じる妬みの感情がシャーデンフロイデを喚起させるという点は、澤田(2008)とも整合しており、本研究でも同様の結果が再現された。

続いて、同情に対しては憧れ／賞賛の正の影響のみ有意であった。ターゲット人物に対して生じたポジティブな妬み感情は、当該の人物が不幸な目に遭った際の同情、すなわち共感的な反応を生起させやすいということは首肯できるものであろう。

まとめと今後の課題 本研究の結果から、まず特性としての悪性妬みの抱きやすさは、状態的な妬みを高め、間接的にシャーデンフロイデを喚起させていた。このことは、特性妬み尺度のうち、特に悪性妬み尺度の予測的妥当性を示すものである。

そして、特性妬み尺度とともに社会的望ましさ反応尺度も併せて測定し、これらの影響を加味した上でも、Dark Triadは状態妬みや憧れ／賞賛、シャーデンフロイデや同情に対して直接あるいは間接的に影響を及ぼしていることが確認された。Dark Triadを扱う研究において、本研究は一資料になることが期待される。

ただし、本研究における課題を3点挙げるができると思われる。まず、パス解析において性ごとに分けた検討を行っていない点である。シャーデンフロイデは男性の方が高いという先行研究は多く(藤井・澤田, 2014; 澤田, 2008)、本研究も同様の結果となった。また、サイコパシー傾向についても下司・小塩(2017)と同様、男性の方が高いという結果であった。加えて、特性要因が状態妬みやシャーデンフロイデに与える影響過程は性によって異なるという報告(澤田, 2008)もある。本研究ではサンプルサイズの小ささを踏まえて性差の検討は見送ったが、今後は十分なサンプルサイズを確保した上で、性差を検討することも必要であると思われる。

次に、社会的望ましさ反応を測定するために使用したBIDR-Jの2つの下位尺度(印象操作・自己欺瞞)の信頼性係数が低かったことが挙げられる。回答者の負担を考慮して、原尺度から項目を抜粋して使用したが、谷(2008)では、12項目を用いても各下位尺度の信頼性係数(α)は.70程度であることを報告しており、項目を抜粋したことによって信頼性係数が低下した可能性が考えられるため、本研究の結果の解釈は慎重に行うべきであろう。

また、本研究ではシャーデンフロイデの高まりやすさを考慮して、高地位のターゲット人物が、自身の責任によるものが大きい不幸に遭うという場面を設定したが、「飲酒運転で検挙され、恋人に振られてしまい内定も取り消される」という当該のシナリオは、不幸の深刻度がやや高いようにも思われる。藤井・澤田(2014)において、このシナリオの相応性の認知(この状況はターゲット人物にふさわしい)および責任性の認知(この状況の責任はターゲット人物にある)はともに高く評定されることが示されているが、この不幸の深刻さについては検討されていない。今後は、このシナリオの深刻度についても併せて検討すべきであると考えられる。

引用文献

- 藤井 勉・澤田 匡人 (2014) . 自尊感情とシャーデンフロイデ——潜在連合テストを用いた関連性の検討—— 感情心理学研究, 21, 114-123.
- Lange, J., & Crusius, J. (2015) . Dispositional envy revisited: Unraveling the motivational dynamics of benign and malicious envy. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 41, 284-294.
- 中村 敏健・平石 界・小田 亮・齋藤 慈子・坂口 菊恵・五百部 裕・清成 透子・武田 美亜・長谷川 寿一 (2012) . マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 20, 233-235.
- 大庭 丈幸・西松 能子・大平 英樹 (2013) . サイコパス特性と多次元的共感性 人間環境学研究, 11, 13-18.
- 小塩 真司 (2002) . 自己愛傾向によって青年を分類する試み——対人関係と適応, 友人によるイメージ評定からみた特徴—— 教育心理学研究, 50, 261-270.
- 大隅 尚広・金山 範明・杉浦 義典・大平 英樹 (2007) . 日本語版一次・二次サイコパス尺度の信頼性と妥当性の検討 パーソナリティ研究, 16, 117-120.
- Paulhus, D. L. (1991) . Measurement and control of response bias. In J. P. Robinson, P. R. Shaver, & L. S. Wrightsman (Eds.), *Measures of personality and social psychological attitudes*. New York: Academic Press. pp. 17-59.
- Porter, S., Bhanwer, A., Woodworth, M., & Black, P.J. (2014) . Soldiers of misfortune: An examination of the Dark Triad and the experience of schadenfreude. *Personality and Individual Differences*, 67, 64-68.
- 澤田 匡人・藤井 勉 (2016) . 妬みやすい人はパフォーマンスが高いのか? ——良性妬みに着目して—— 心理学研究, 87, 198-204.
- 澤田 匡人 (2008) . シャーデンフロイデの喚起に及ぼす妬み感情と特性要因の影響——罪悪感, 自尊感情, 自己愛に着目して—— 感情心理学研究, 16, 36-48.
- 下司 忠大・小塩 真司 (2017) . 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成 パーソナリティ研究, 26, 12-22.
- Smith, R. H. (2013) . *The Joy of Pain: Schadenfreude and the Dark Side of Human Nature*. New York: Oxford University Press.
- (リチャード・H・スミス, 澤田 匡人 (訳) (2018) . シャーデンフロイデ——人の不幸を喜ぶ私たちの闇 勁草書房)
- 田村 紋女・小塩 真司・田中 圭介・増井 啓太・シヨナソン ピーター カール (2015) . 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 24, 26-37.
- 谷 伊織 (2008) . バランス型社会的望ましさ反応尺度日本語版 (BIDR-J) の作成と信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 17, 18-28.